

国際協力事業団  
タンザニア連合共和国  
天然資源観光省水産局

# タンザニア国 水産業振興マスタープラン調査

主報告書

平成 14 年 6 月

システム科学コンサルタンツ株式会社  
オーバーシーズ・アグロフィッシャリーズ・コンサルタンツ株式会社

農調林
JR
02-36

## 報告書の構成

本報告書は以下の3巻より構成される。

要約

主報告書

付属書

## 序 文

日本国政府は、タンザニア連合共和国政府の要請に基づき、同国の水産業振興計画にかかる開発調査を行うことを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施いたしました。

当事業団は、平成 13 年 1 月から平成 14 年 4 月までの間、4 回にわたりシステム科学コンサルタンツ株式会社の山本幸生氏を団長とする調査団を現地に派遣しました。

調査団は、タンザニア連合共和国政府関係者と協議を行うとともに、計画対象地域における現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

この報告書が、本調査の推進に寄与するとともに、両国の友好・親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終わりに、本調査にご協力とご支援を頂いた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成 14 年 6 月

国際協力事業団

総裁 川上隆朗

## 伝達状

国際協力事業団

総裁 川上 隆朗 殿

今般、タンザニア連合共和国における「水産業振興マスタープラン調査」を終了しましたので、ここに最終報告書を提出いたします。本調査報告書は、タンザニア国の天然資源観光省水産局をはじめとする関係諸機関との密接な関係のもと、調査団が平成 13 年 1 月より平成 14 年 6 月までの 18 ヶ月にわたり実施した調査結果を取りまとめたものです。

タンザニア国は約 800km にわたる海岸線に加えビクトリア湖などアフリカ 3 大湖を領有する水産資源大国であり、水産業の国民生活向上に果たす役割は、今後も大きな可能性を秘めています。タンザニア国政府は現在、重債務貧国イニシアティブの適用を受け、セクターを越えて貧困削減に取り組んでいます。本調査は、貧困削減に向けて水産業の果たしうる 4 つの役割、すなわち食料保障、水域環境、水産物輸出、漁村社会環境に焦点をあて、全国を対象に開発戦略及び 15 の優先プログラムを策定・提案いたしました。

本調査期間中、貴事業団ならびに外務省、農林水産省の関係各位には多大なご理解とご支援を承り、心より御礼申し上げます。タンザニア国政府においては天然資源観光省をはじめ、政府関係機関に協力を頂いたこと、特に水産局については多忙な中、調査対象地踏査・計画の検討に精力的な参加を得たことを付け加えさせていただきます。また、在タンザニア国日本大使館、貴事業団タンザニア事務所の皆様には貴重なご助言とご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

貴事業団におかれましては、計画の推進に向けて、本報告書を大いに活用されることを切望致す次第です。

平成 14 年 6 月

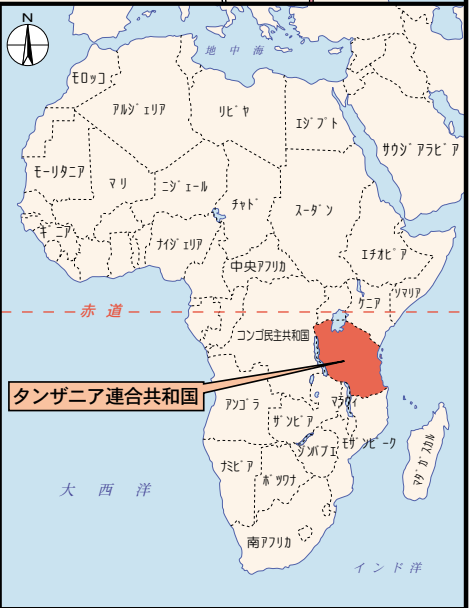
システム科学コンサルタンツ(株)  
オーバーシーズ・アグロフィッシャリーズ・コンサルタンツ(株)  
共同企業体

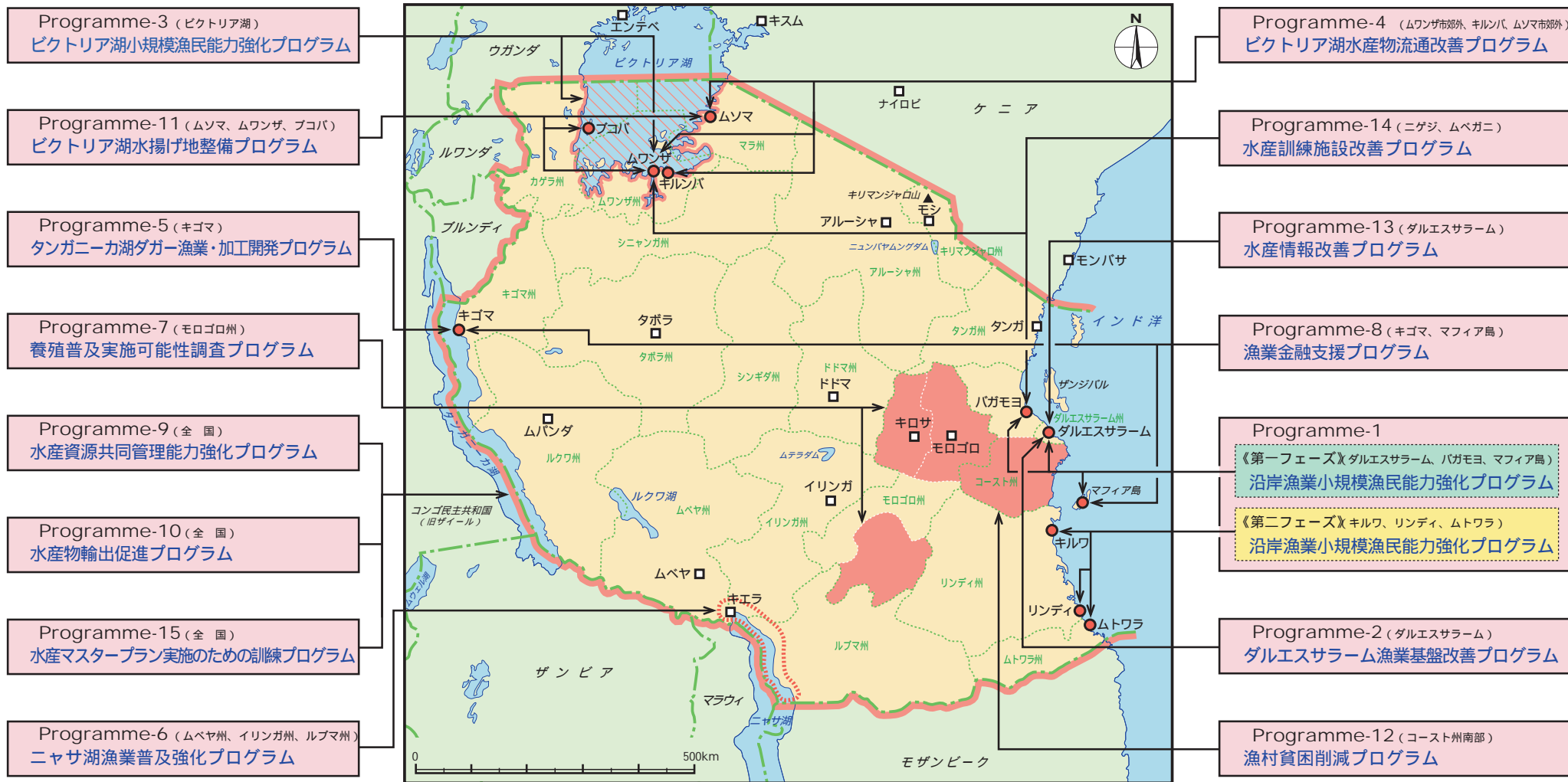
タンザニア国水産業振興マスタープラン調査  
業務主任 山本 幸生



- 《凡 例》
- |  |      |  |              |
|--|------|--|--------------|
|  | 国 境  |  | 幹線道路         |
|  | 州 境  |  | 鉄 道          |
|  | 主要都市 |  | 調査団による踏査地    |
|  |      |  | 漁民社会・経済調査対象地 |

タンザニア国水産業振興マスタープラン調査  
調査対象地位置図





優先プログラムの配置図

## 漁船及び漁具

### 漁船 インド洋沿岸



■ガラワと呼ばれるアウトリガーを装備したカヌー。通常は帆走で走行。



■ダウ。キール、肋材、外板からなる木造ボートで、長さは 6-10 m。マストとヤード、三角セーラー及び舵を装備し、通常は帆走で走行。



■マシュアと呼ばれるキール、肋材、外板からなる木造ボート。ダウと同様な帆走装置を有し、帆走で走行するが、トランサムに船外機を装備するものもある。マフィア島にて。



■同じくマシュア。クンスチにて。

### 漁船 ビクトリア湖



■帆を利用した小型カヌー。ティラピアの大半はこのような小型漁船で漁獲される。



■同左。船外機をつけた漁船を母船とし、このような無動力ボートを 5-10 隻、魚場まで曳航する。



■ナイルパーチ刺網漁船。25-40HP の船外機を装填する。



■ンコメ水揚浜での漁船係留風景。



## 漁船 タンガニーカ湖



■リフトネットを用いたダガー漁に用いられるカタマランボート。魚場では手前にみられる木の棒で2隻の船をつなぎ、灯火による集漁業を行う。



■同左。



■カトンカ水揚地におけるダガー漁船の係留風景。



■同カトンカ水揚場における水揚げ風景。

## 漁船 ニヤサ湖



■ダグアウトカヌー。船外機、帆は用いられず、動力はパドルによる手漕ぎ。材料となる木によって耐久性が異なる。



## 漁具



■ビクトリア湖。刺網。最小目合は5インチであるが、同サイズでは多くの未成熟魚を捕らえている。



■ダガー漁に用いるライト。沿岸から湖まで広く、ケロシンランプが使われる。光力が集魚の時間に大きく影響することから電灯、水中灯及び反射板の改良などが本計画で検討されている。